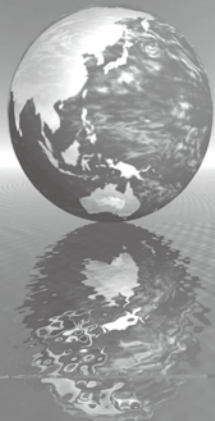


関西学院大学主催
秋季人権問題講演会



映画を通じて難民を知る

映画上映：『今はまだ、帰れない君へ』

(2016年「難民映画祭」上映作品)

◆ 2016年11月21日(月)

● 午後3時10分～午後4時40分

場所／西宮上ヶ原キャンパス

B号館203号教室

◆ 2016年11月22日(火)

● 午前9時00分～午前10時30分

場所／神戸三田キャンパス

Ⅱ号館201号教室

◆ 講師／^{いま}今 ^{じょう}城 ^{だい}大 ^{すけ}輔 氏

(UNHCR難民映画祭プロジェクトマネージャー)

* 講演については手話通訳・パソコンテイクによる情報保障を予定しています。
また、録音、録画を行い図書館資料として保存しますのでご活用下さい。

■講演内容

今日、紛争や迫害によって故郷を追われる難民や国内避難民の数は第二次世界大戦後最も多く、2016年末には7,000万人を超えられている。地中海を渡ってアフリカや中東からヨーロッパを目指す難民らの数が増え続ける中、海で命を落とす人の数は今年の10月に3,800人を超えた。これは昨年度1年間の死亡者数と同じ規模である。こうした「数字」から難民や国内避難民について考える時に見えてくるのは移動を強いられた集団としての人間であり、一人ひとりの人生に思いを馳せることは容易ではない。そうした中、映画は難民を「数」ではなく一人ひとりの人間として描き、その一人ひとりには人生があるという当たり前の事に気付かせてくれる。今、世界の名立たる国際映画祭では難民をテーマとした作品や難民が絡む作品が注目されている。カンヌ国際映画祭やベルリン国際映画祭で最高賞を受賞するような作品もそうである。今日、映画は難民をどう捉え何を伝えるのか？

■講師紹介

1973年東京生まれ。1997年慶應義塾大学総合政策学部卒業。1999年から2007年まで緊急医療・人道援助を専門とする国際NGO「国境なき医師団」の事務職員および海外ミッションのアドミニストレーター（人事・財務担当）としてミャンマー、ネパール、スリランカなどのプロジェクトに従事。2007年より2年間、日本の映画配給会社「アップルリンク」の宣伝配給部勤務を経て2009年より「UNHCR難民映画祭」を担当する傍ら、2010年にはハイチ、2013年にはソマリアにおける「国境なき医師団」の短期ミッションにも参加。

総合テーマ：

Towards the Realization
of Human Rights

— 人権保障の実現を目指して
(2015～2019年度)